

会議概要

| | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 審議会 | 令和4年度 第2回 安曇野市総合計画審議会 |
| 2 | 日時 | 令和4年8月4日(木) 14時00分～16時20分 |
| 3 | 会場 | 議会全員協議会室 |
| 4 | 出席者(敬称略) | 木村会長、二村副会長、赤羽(高)委員、赤羽(史)委員、上原委員、内田委員、岡江委員、尾臺委員、栗田委員、小岩井委員、高橋(秀)委員、高橋(良)委員、筒井委員、長崎委員、花岡委員、樋口委員、安井委員、依田委員、綿貫委員 |
| 5 | 説明者等 | 渡辺政策部長、黒岩政策経営課長、藤澤企画担当係長、米山企画担当主査、柳澤企画担当主査、長野経済研究所 |
| 6 | 庶務担当課出席者 | 同上 |
| 7 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 8 | 記者 | 1人 |
| 9 | 会議概要作成年月日 | 令和4年8月5日(金) |

| 協議事項等 | |
|-------|--|
| 1. | 開会 |
| 2. | 会長挨拶 ・ コロナの第7波が来ているが、後期計画を審議するにあたり、最初から最後までコロナ禍の状況になりそうである。社会状況にめげずに頑張って最後までやり通して頂きたい。 |
| 3. | 審議会委員の委嘱について 【説明】 内山委員(八十二銀行豊科支店長)の異動に伴い、後任の白鳥氏に委員を委嘱した。 |
| 4. | 会議事項 【発言者 ◎会長／・委員／⇒事務局】 (1) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について(資料1) 【説明】 (資料に沿って説明) 【質疑応答等】 ・ 認定農業者の平均年齢はどのくらいか。 ⇒農業従事者全体では70歳を超えたと聞いている。 ・ 認定農業者数は増加しており、平均年齢は低下しているのではないか。 ⇒高齢化が進んでいる。 ・ テレワークセンターの実態についてはどうか。 ⇒塩尻市でテレワークセンターを請け負っている公社に指導をしてもらっている。 ・ 安曇野市では子育て環境や女性の働き方において、テレワークの充実は重要な要素になると思うので、ぜひ積極的に活動して頂きたい。 ・ 農業の担い手についての指標を認定農業者に限定する理由は何か。 ⇒農業従事者の高齢化や減少が進む中で、地域の農業を担う意欲のある農業経営者として |

認定農業者数を指標としている。

- ・ 全体の農業従事者数の推移を捉えていく必要があるのではないか。

⇒今後、総合計画の指標設定等において参考にさせていただく。

◎例えば、「さとぷろ。」についてサポーター登録者数を目標として設定しているが、目標設定の仕方を適切にしたほうがよい。全体として、最終的に何を達成しようとしているのかを明確にして目標設定をしてほしい。

- ・ 社会増減数はC評価となっているが、基礎調査では安曇野市は他市と比べて子育て世代の転入超過が大きいとされている。社会増減数のみによる評価では、実態を適正に評価できていないのではないか。

⇒総合戦略では、全体の転入超過数を指標としているが、人口ビジョンにおいては子育て世帯の転入数を目標として設定している。

- ・ 「さとぷろ。」について、サポーター登録者数を目標として設定しているが、参加者・受講者を増加させることがより重要ではないか。

◎後者が重要であると思う。総合計画の指標を設定する際には、数字の取り方を工夫して欲しい。

(2) 市民意識調査（完成版）について（資料2）

【説明】

（資料に沿って説明）

【質疑応答等】

- ・ P29 の設問について、道路と公共交通を分けて聞いたほうがよかったのではないかと。

また、P77 のユニバーサルデザインについて、必要としている人が増えているという理解でよいのか。

⇒1点目については、P34、35 を参照して頂きたい。ここでは、現状の満足度や今後の重要度について、道路と公共交通に分けて市民意向を確認している。

2点目について、社会的な要請は高まっていると考えられる。実際の数については、確認して後日回答したい。

- ・ 図表 49 を見ると、公共交通の利便性が低く生活しにくいという結果が出ている、市民の自家用車の所有の状況も踏まえて解決策を検討する必要があるのではないかと。

また、公共交通の利便性が低いという現状がある一方で、P77 のユニバーサルデザインについての設問では、公共交通に関しての選択肢が設定されていない。設問に問題があるのではないかと。

⇒アンケートの設問について次回アンケート実施時の参考にさせていただく。

- ・ 心のバリアフリーについては聞いていないが、どのように考えているか。

⇒次回アンケート実施時の参考にさせていただく。

- ・ アンケートのサンプル数が少ない。よく検証してほしい。

(3) 基本施策の体系について (資料3)

【基本目標1について説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

- ・ 施策分類の順番について、出産・子育てを2番目に持ってきたほうがよいのではないか。他の項目でもどこに重点をおくのがわかるようにしたほうがよい。
- ・ 施策分類について、福祉に出産・子育てを含めるのはどうか。
⇒意見をもとに検討したい。

- ・ 質の高い保育、幼児教育のところには、環境教育を入れていることが大変重要だと考えている。「地域おこし協力隊を起用して」と記載があるが、この方たちの役割がまだ不透明でもある。

指標目標値については、質の高い保育、幼児教育の実現という観点では、人材が重要ではないか。保育士の離職率の高さがあるが、ICT化だけでは賄えない事ではないかと考えている。

現場にいるとICT化で事務作業が軽減されている実感はない。保育の時間が伸びてきており、保育士が事務作業をしている時間がとれないのが現状。保育士の働き方を考えていかなければいけないし、子育て支援をしなければいけないご家庭も多くなっている。家族が子育てを楽しめるようなコミュニティを充実させていくという事も子育て環境を整えることにつながるのではないかと。

⇒さまざまな方向からのアプローチを検討し、担当課と共有したうえで計画に反映したい。

- ・ 保育の多様化のための方法は、民間への委託に限らないと考える。多様化＝民間という図式に疑問を感じる。公立施設が提供するサービスの多様化を図ることも重要ではないか。公立が多様性を持つことを放棄しているようにも聞こえる。

⇒子ども・子育て支援法では、民間を含めた保育の多様な選択肢を提供することが行政の責務となっており、民間への委託によっても保育サービスの多様化に取り組むこととしている。

- ・ その点を踏まえて、公立が多様性を持つことを検討してほしい。

- ・ また、食育については農業にも関わってくると思う。安曇野に移住する方で、有機食材に対する注目度は高い。有機給食などは売りにできるのではないかと。

⇒参考にさせていただく。

- ・ 総合計画の内容は、個別計画にも落とし込まれるという認識で良いか。

⇒概ねその認識で間違いない。

- ・ 指標目標値について、設定の根拠等を明らかにする必要があるのではないかと。

⇒担当課と話し合っ指標の内容を精査していきたい。

◎何を根拠として指標を設定しているのかわかればよいのではないかと。

⇒備考欄に解説を入れようと考えている。

- ・ 指標目標値の水準に関しては、現在・過去からの改善だけでなく、他の市町村との比較も1つの手法として検討してほしい。

【基本目標2について説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

- ・ 2-6と2-8、2-5と2-10の違いが不明確ではないか。また、2-4は2-5や2-10にも関わってくる内容ではないか。

⇒施策体系がわかりやすくなるよう、基本施策の名称等について検討したい。

- ・ 商工業の振興は、特に重要になる施策である。内容の充実をお願いしたい。

- ・ 抽象度が高い表現になっているので、今ある資源をどのように活用するのかなど、より具体的な表現になるように検討いただきたい。

⇒総合計画という特性上、ある程度抽象的になってしまう部分もある。ただ、あまりにも抽象的すぎるのも問題であるため、どこまで具体性を持たせられるか、担当課と検討したい。

【基本目標3について説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

- ・ 住宅耐震化について、調査はするが工事はしない事が多い。県の対策としては、省エネ化と一緒に耐震化をするように補助金の出し方が変わってきている。

- ・ アルファ米の備蓄率は指標として必要か。非常用トイレの設置などに関する指標の方が大事ではないか。移住を検討する者の指標としても有用ではないか。

⇒担当課に確認の上、指標の変更についても検討する。

- ・ 基本目標3、4はあえて分ける必要はないのではないか。

⇒検討する。

【基本目標4について説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

- ・ 自然環境の保全については環境教育が重要だと思うが、P56 4-1の取組の方向に記載の「自然環境に対する～」という一文を環境教育と捉えてよいのか。

⇒その認識で良いかと思うが、表現が抽象的であるため、環境教育に関するものであるとわかるような表現を検討したい。

- ・ 特定空き家という言葉は専門用語でわかりにくいので、解説を入れるなど考えたほうが

よいのではないか。

⇒前提として、できるだけ専門用語は使わず、平易な言葉を用いるよう努める。専門用語や難解用語を使用する場合は、巻末などに解説を記載したい。

- ・ 省エネをやれば補助金を出すという政策の安曇野版があってもよいのではないか。空き家対策にもつながるのでは。また、定住を促進するには、コミュニティの場を提供することも大事ではないか。住んでみたが、近所付き合いがないなどという声も聞く。
- ・ 4－2循環型社会の実現について、3R やエシカル消費、ごみ減量について記載されているが、これだけでは足りない。コミュニティやエネルギーの問題も踏まえて、地域循環共生圏のような考え方を取り入れてほしい。

【基本目標 5 について説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

- ・ P78 について、特別な配慮を要する子どもの早期発見、早期支援が大切だと考えている。取組の方向に「早期発見」や「早期支援」の文言を加えたらどうか。
また、家庭教育力の向上の施策が必要である。子どもの定期健診の際に親たちを啓発していく必要があるのではないか。何かの機会に伝えていかなければならないと感じている。
 - ・ 早期発見については危険性もある。場合によっては、発達障がいがあるということが親の頭に残り、やるべきことができなくなるケースもある。保健師さんの受け入れ態勢などが重要になるため、安易に取り組むことは避けるべき。
 - ・ 早期発見というのは診断名をつけるという事ではなく、一人ひとりの学びを保証するという風に考えられるとよいと思う。一人ひとりの子どもを理解して大切にしていける体制を考える必要がある。今の配置基準を見直さないと難しいのではないか。何か安曇野で先進的な取組ができるとよい。
 - ・ 「早期発見」、「早期治療」は大事なことであると考え。出産・子育ては明るい町を作るために積極的にせめていかなければいけないこと。福祉は弱い人を守ること。まとめて論じることは良くないと考える。
- ◎「早期発見」、「早期支援」については、施策への反映内容を担当課と相談のうえ、次回以降の審議会で報告してほしい。

【基本目標 6 について説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

- ◎心のバリアフリー化の記載を基本目標 6 で表現できるように考えてほしい。
- ・ 市民アンケートの報告書を見ると、住み続けたくない理由の 2 位に、近所や地域との付き合いが挙げられている。これは、区での役員の負担が大きいことが考えられる。地域の活性化なくして安曇野市の活性化はない。この事を念頭に置いて、施策を策定してほしい。
 - ・ 区というのは法的な位置づけがあるのか。あくまで任意団体であると認識しているが、行政が区を前面に押し出す理由がわからない。移住者には煩わしく感じる事もあるので、

区について、きちんとした説明が必要である。あり方についても、精査する必要があるのではないか。

⇒移住者でもきちんと理解できるような内容としたい。

(4) 序論及び基本構想の骨子について (資料4)

【説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

◎実際の内容を見ないと指摘がしにくいと思うので、できるだけ早く見せてほしい。

(5) その他

【説明】

(資料に沿って説明)

【質疑応答】

・ 今日の本議会で挙げた検討事項への対応状況を次回の本議会前に提出してほしい。本議会当日の資料の配布については、変更点だけ記載して配布してほしい。

⇒本議会当日の配布資料は、事前に配布した資料と変更があった部分のみをお配りする。

5. 閉会

(以上)